

2021年5月号

# ニュースナビ

NEWS JR 駅無人化反対訴訟と、支援する会の結成  
みんなのJRになってほしい

みんなのねがい編集部 小針明日香 (こはり あすか)

## 駅の無人化は「移動の自由」の制限

「だれもが安心して利用できるJRになってほしい」と、大分市内の駅無人化に反対する裁判が提訴され、2月4日に第1回口頭弁論が大分地方裁判所でおこなわれました。3人の車いす利用者が原告となり、駅無人化により移動の自由を侵害されたことは違法だとして損害賠償を求めています。

2017年、JR九州は市内の10駅に遠隔で駅を管理するスマートサポートステーション（以下SSS）を導入し、すでに無人となっていた2駅に加え新たに8駅を無人化する方針を発表しました。SSSは、カメラでの遠隔監視によって乗客の安全を確保し、切符の販売等は機械でおこなうというものです。駅係員による窓口業務が削減され、列車乗降に介助が必要な人は駅利用に事前予約が必要となりました。事前予約の不便さをはじめ、無人化はこれまで駅係員の介助・見守りがあるなかで電車を利用していた車いす利用者や高齢者等にとって外出を制限する大きな障壁となっています。

## 無人化反対運動、これまでの経過

県内では、無人化計画が示されてから「だれもが安心して暮らせる大分県をつくる会」を中心に、計画の撤回を求める抗議集会や反対署名

がとりくまれてきました。署名運動では、福祉団体や福祉事業所をはじめ、無人化を憂慮する地域住民からあわせて7万筆を超える署名が集まりました。運動によって8駅一斉の無人化は先送りされたものの、JR九州は無人化計画を進める姿勢を変えませんでした。無人化が推し進められるなか、2018年11月の集会では、障害のある人たちが車いすや盲導犬とともに無人化された駅や無人化の対象となっている駅から列車に乗車し、駅利用の不安を検証する抗議運動などもおこなわれました。

2019年3月には、「障害のある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例」に基づき、県に対して特定相談が申し立てられます。障害当事者である7人が申立人となり、「無人化されると安心して乗れない」「事前予約は社会的な障害をつくる」「時間の自由がなくなる」「助けがほしいときに困る」「ホームから転落したときにどうやって助けてくれるのか」と訴え、無人化計画の中止をJR九州に助言するよう求めました。しかし十分な回答は得られず、これらの経過を踏まえ同年11月に訴訟へ踏み切る方針が確認され、2020年9月に提訴されました。

## 公共交通のあり方を問う裁判

第1回口頭弁論では、原告の吉田春美さんが



▲写真中央、原告の3人。向かって右が吉田春美さん

文字盤で意見陳述をおこないました。「電車に乗って移動することが大好きだが、無人化によって事前の予約が必要になり、当日の時間変更や駅の変更ができない。今後もJRに乗って社会参加を続けたい」と無人化の白紙撤回を求めました。代理人の平松まゆき弁護士は、JR九州の公共性を問い、事前の予約や調整なしに利用できなくなった車いす利用者の負担は深刻であるとの意見陳述をおこないました。同日には、「JR駅無人化反対訴訟を支援する会」が結成され、全国に向けた署名協力も呼びかけられ

ています（上記のQRコードから①署名チラシと②署名用紙をダウンロードできます）。

地方鉄道をはじめ、都市部でも利用者の少ない時間帯などの駅無人化が進んでいます。昨春のバリアフリー法改定では、無人駅で鉄道事業者がとりくむべきガイドラインの策定が盛り込まれました。現在、国土交通省で検討会がおこなわれており、今年の夏ごろに最終まとめが出される予定です。鉄道事業の公共交通機関としての役割を求め、だれもが安心して利用できる公共交通を実現していくことが必要です。

## 原告・吉田春美さんのメッセージ～全国各地につながって

僕は、67歳です。人工呼吸器の在宅生活一人暮らし18年目ですが、全障研に入会したのが20歳のときです。23歳で、大分市街地の歩道の段差を無くして、スロープと点字ブロック設置を求めた活動をしました。当時は、点字ブロックやスロープの設置は全国的にもめづらしく、九州でも、大分市のとりくみが初めての大きな成果として、その後全国に広がりました。

今回の駅無人化計画や電車に乗るのに予約する不便を被る人たちの先頭に立って闘うのも、僕の大切な役目だと思います。電車の線路は全国各地につながっているように、駅無人化や事前予約に反対する声は、線路と一緒に全国各地につながっています。

駅無人化と事前予約という障害者の身体的かつ精神的負担を増やし、移動の自由と社会参加の道を狭めるJR九州の駅無人化計画を、大分市で食い止める裁判が大分地裁で始まり、3人の原告のトップを務める意見陳述を文字盤でしました。全国初の文字盤での裁判権を行使しました。

その後の報告会では元気に明るく楽しい裁判にして、最後まであきらめず良い結果を聞けるまで闘う決意をしました。そして、駅無人化反対を支援する会も結成されました。また、九州各県でも駅無人化反対裁判の機運が高まっています。



①署名チラシ



②署名用紙



支援する会  
ニュース第1号